

旧堀切小学校の跡につくった高さ10メートルの「津波避難マウンド」、ここまで逃げれば大丈夫という津波の「セーフティライン」を道路に表示する「道標プロジェクト」など、田原市が取り組む津波対策について聞いた。

現在、旧堀切小学校の跡地にはマウンドがある。マウンドと場所で、逃げ遅れた人が一時的に避難する場所になっている。高さは10メートルあり、階段がいろいろな方向にある。スロープもあるので、病気の人やお年寄りも登りやすい造りになつていて。マウンドの上には非常用トイレが8基あり、まだんぱーンチだが、災害が起きたときは組み立てて使えるようになっている。

田原市の取り組みには、「道標プロジェクト」というものもある。消防士の遠山直也さんが考案出した対策で、南海トラフ地震発生時に津波被害が予想される道筋に、「ここまで来れば命が助かる」という「セー

タブル」が設置されている。このほかに、その場所の海抜と、津波がきても心配のない高さが表示された電柱がある。その電柱を見ることで、

「セーフティライン」を設けるプロジェクトだ。田原市内では、「セーフティライン」までの案内として、進む方向と距離を示した看板が道に設置されていく。また、避難場所までの案内看板も設置されていて、初めて来た人でもわかりやすくなっている。だれが見ても避難できるようになると、たくさんの人の命が助かるので、とても良いと思った。

田原市は渥美半島にあり、南かいトラフ地震が来るとばかりしない津波被害を受けるといわれている。田原市に津波が到達するまでの時間で、早く避難しないと津波にのまれてしまう。

「津波避難マウンド」のある「ほりきり広場」



命守る対策に知恵絞る 安全ゾーンへ導く道標

避難しているときにどれぐらいいの高さの場所なら大丈夫で、今はどれぐらいの高さの場所にいるのかがわかる。かつては、海で使わなくなつた灯台を移設し、避難するときの目標として再利用していた。暗い時間でも、灯台をめざすことで避難を安全にわかりやすく行うためだった。

命を守るために、いろいろな対策に地域で取り組むことによって、進む方向と距離を示した看板が道に設置されていく。また、避難場所までの案内看板も設置されていて、初めて来た人でもわかりやすくなっている。だれが見ても避難できるようになると、たくさんの人の命が助かるので、とても良いと思った。



山下湊人記者

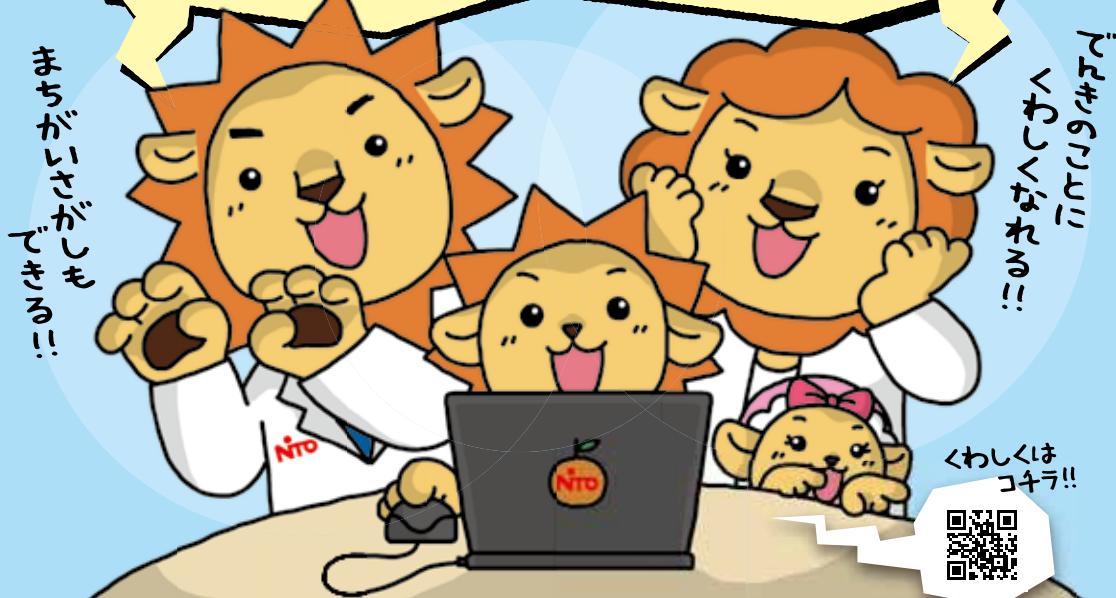


「津波避難マウンド」に登った



「セーフティライン」まで案内する看板

あつ! 「ソーライオンの部屋」が新しくなってる!



べんきょうになるよ!
「電気の教室」 / まちがいさがしあそぼう!
「ダウンロード」



ソーライオンファミリーのヒミツや
ためになる「電気の教室」など
たの楽しいコトがいっぱい!!

